

# 生産流通加工

## 小田原の漁業

小田原の漁業は、古くから定置網漁が盛んで、昭和30年頃はブリ、昭和35年頃はマアジ、昭和45年からの約20年間はウマヅラハギが主な魚種でした。昭和55年以前は年間漁獲量が5,000トンを超えていましたが、昭和56年を境に激減し、最近では2,000トン程度で推移しています。

現在の小田原漁港の陸揚げは、サバ類、イワシ類、ソウダガツオ、アジ類、ブリ類などが主な魚種で、多品種であることから好不漁の波を大きく受け、量、価格ともに安定的な供給に課題があります。

## 新港西側エリアの整備

西部漁港事務所では、特定漁港漁場整備事業等により、新港西側の海岸を埋め立て防波堤や防波護岸、臨港道路、多目的広場、駐車場などを整備するとともに、大型定置網などの漁具保管修理施設用地、蓄養水面及び準備・陸揚げ岸壁、加工場用地等を一体的に整備し、漁業活動の効率化を図っています。

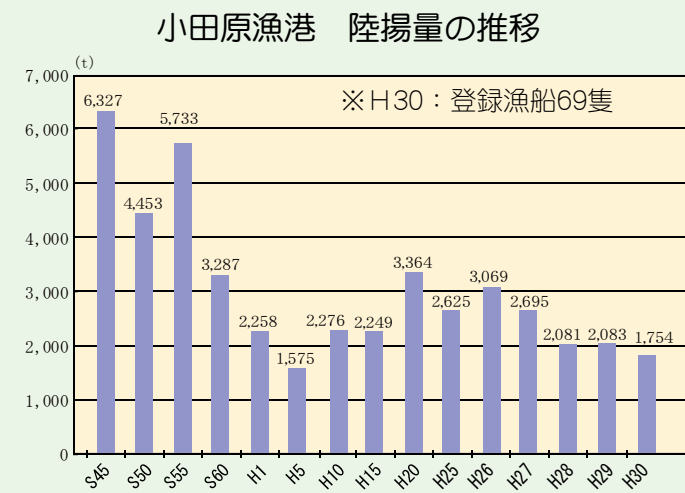
## 生産流通加工拠点へ...

防波堤(2)の整備・延伸により蓄養水面及び新港西側泊地の静穏度を確保することで、定置網漁などで漁獲した魚の蓄養、陸揚、荷さばき、加工処理、直販、輸送を一連の作業として、効率的かつ安定して行うことが可能となります。

このことにより、消費者ニーズに応じた活魚や高鮮度水産物の安定供給の体制を強化し、県西地域の水産物の生産、流通拠点としての発展を図っています。

## 都市住民との交流

小田原市が事業主体の交流促進施設「漁港の駅TOTOCO小田原」周辺エリアの魅力高め、都市住民との交流を更に促進するため、早川海岸の整備を進めています。



番号	施設名	番号	施設名
①	防波堤(2)	⑧	準備岸壁
②	防波護岸	⑨	陸揚岸壁
③	臨港道路	⑩	加工場用地
④	多目的広場	⑪	荷さばき施設
⑤	駐車場	⑫	水産加工施設
⑥	漁具保管施設用地	⑬	TOTOCO小田原
⑦	蓄養水面	⑭	階段護岸等(早川海岸)

# 小田原漁港 事業計画

